

春の詩を読む

一年

組

氏名

1 風景

山村暮鳥

いちめんのなのはな
 いちめんのなのはな
 いちめんのなのはな
 いちめんのなのはな
 いちめんのなのはな
 いちめんのなのはな
 いちめんのなのはな
 かしかなるむぎぐさえ
 いちめんのなのはな

いちめんのなのはな
 いちめんのなのはな
 いちめんのなのはな
 いちめんのなのはな
 いちめんのなのはな
 いちめんのなのはな
 いちめんのなのはな
 ひばりのおしやべり
 いちめんのなのはな

いちめんのなのはな
 いちめんのなのはな
 いちめんのなのはな
 いちめんのなのはな
 いちめんのなのはな
 いちめんのなのはな
 いちめんのなのはな
 やめるはひるのつき
 いちめんのなのはな

2 山頂から

小野十三郎

山このぼるて
 海は天まであがつてくる。
 なだれ落ちるような若葉みどりのなか。
 下の方で しずかに
 かつてうがなっている。
 風に吹かれて高いところだとして
 だれでも自然に世界の広さをかんがえる。
 ぼくは手を口にあてて
 なにか下の方に向かって叫びたくなる。
 五月の山は
 きらきらと明るくまをしい。
 きみは山頂よりも上に
 青い大きな弧をえがく
 水平線を見たことがあるか。

3 紙風船

黒田三郎

落ちて来たら
 今度は
 もつと高く
 もつと高く
 何度でも
 打ち上げよう
 美しい
 願いでこの空を

4 ひとみのうた

木島始

さわやかな 空を さがしあて
 春に 叫びをあげさせよう
 とびちる 言葉の根を とらえ
 きみは 燃える瞳で 植えつける
 からだに 芽はえる すばらしい言葉
 はるか 空さしとおす 心のものを
 こころざし 嵐にあたらししい こころざし
 とほしい ちから
 みなぎる ちから
 もつと いのち
 にぎる いのち
 きびしい ちえ
 てさぐる ちえ
 くらげ みち
 たぐる みち
 やさしい ひとみ
 もえる ひとみ
 さわやかな 空を さがしあて
 春に 叫びを あげさせよう

5 数えうた

一いち聞けば二くらしい、
 三さんなごと四やがつて、
 五うつくばりの六でなし、
 七めんどうだ八つとばせ、
 九せになるから十つかまじろ。

6 はる

谷川俊太郎

はなをこえて
 しろいくもが
 くもをこえて
 ふかいそらが
 はなをこえ
 くもをこえ
 そらをこえ
 わたしはいつでものぼるゆける
 はるのひまぎ
 わたしはかみさまで
 しずかなはなしをした

7 雑草

北川冬彦

雑草が
 辺り構わず
 延び放題に延びている。
 この景色に胸のすく思いだ、
 人に踏まれたりしていたのが
 いつの間にか
 人の膝に没するほぐに伸びている。
 ところによつては
 人の姿さえ見失うほど
 深いところがある。
 この景色は胸のすく思いだ。
 伸びはびこれるときは
 どしどし延び広がるがいい。
 そして見栄えはしなくとも
 豊かな花をいっせり咲かせたいだ。

8 はる

畑中圭一

春
 おにいちゃん むねを はる
 にねんせいに なりはる
 春
 おかあちゃん おながが はる
 すこし たんずきてはる

春
 おばあちゃん しょうじを はる
 ぼくに もんく いうてはる

春
 おとうちゃん ポスター はる
 春の おおुरいだしやて

9 土

三好達治

蟻が
 蝶の羽をひいて行く
 ああ
 ヌットのやうだ

10 つけものの おもし

まど・みちお

つけものの おもしは
 あれは なに してるんだ
 あそんでるやうで
 はたらいてるやうで
 おじつてるやうで
 わらつてるやうで
 すわつてるやうで
 ねころんでるやうで
 ねほけてるやうで
 りきんでるやうで
 こつちむきのやうで
 あじちむきのやうで
 おじいのやうで
 おばあのやうで
 つけものの おもしは
 あれは なんだ

☆国語の授業(家)のスタートは
 十編の春の詩を読んで
 自分の気に入った詩を
 見つけることからです。
 言葉・雰囲気リズム
 自分の心に引かかると
 ものがあるはず。
 ぜひ、見つけてみましょう。

